



山村振興のキーポイント

【ふるさとづくり
・やらまいか
から学ぶ】

官民の連携

業態を超えた連携により 課題解決

有償運送事業の実施に向けて先行事例がない状況の中、関係者は業種を越えて連携し、一年間その準備に力を注いだ。

課題の解決意識

地域の課題については 積極的に協議すべき！

地域の課題を分析し解決策を見出していくには、多種多様な人とその課題について協議することが重要である。

地元企業の力、業態を超えた連携

地元企業の力

地元の企業は地域の促進剤

地元建設会社が担い手となり、高い技術と経験によって企画から実施までの工程をスムーズに進めることができた。

競争力

サービス内容の切磋琢磨

地域密着型の取組であるため、利用者からの苦情や賞賛など情報伝達のスピードが早い。そのため各社が切磋琢磨してサービスの向上に努めている。

住民の参画

利用者の声を反映したシステム構築

住民と担い手が計画段階から協議し、より地域に適した交通システムが構築された。さらに計画段階から参画した住民は積極的にサービスを利用するようになった。

広報の影響

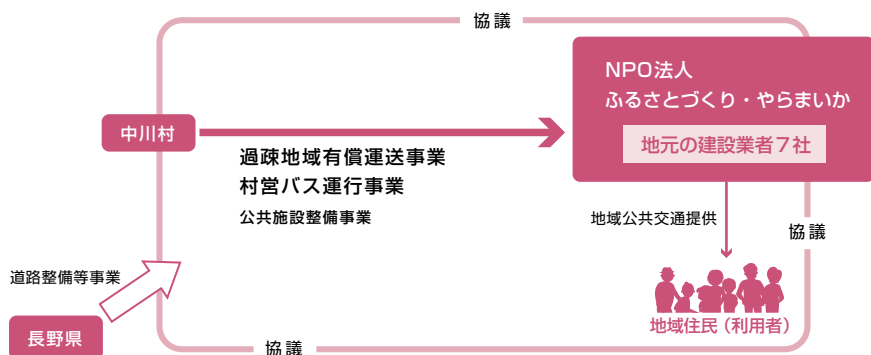
メディアの活用が 意識向上につながる

長野放送等のメディアが事業を紹介したことにより、担い手側のモチベーションアップにつながり、地域の誇りとなった。



活用した組織と制度

地元企業を行政がバックアップ



その人に聞く

地域交通の確保に向けて 時間を惜しまず取り組む姿勢

NPO法人ふるさとづくり・やらまいか副理事長 桃沢 博 氏



中川村は傾斜地の多い地形をしているため高齢者や障害者、子供といった交通弱者の日常の移動が非常に困難な山村でした。村に残された公共交通は村営のバスのみで、その運営も限界という状況だったため、日頃からどうにか公共交通を便利にできないかと構想していました。そのうち建設業界も不況になってきたことをきっかけに「社員を解雇するくらいなら新たな事業を始めて雇用を維持しよう」と新交通システムの運営を我々が担うこととなりました。

事業開始までの1年間は行政と一緒に計画を進めました。3ヶ月くらい寝食の時間を忘れたこともありましたが、その甲斐あって事業を開始してからは村の人たちからの評判も良く、利用者も増加するなど、地域に貢献できているということを実感しています。

建設会社が地域交通を担う利点は多いと思います。地元の会社ですから、村内の道路事情には誰よりも詳しいのでルート設計や運行の安全などが確保できます。また、大抵の社員は自動車の大型免許を所有しているので、村営バスなどの運転も可能となるわけです。

現在は利用者数も充実しており、村の助成のおかげもあって赤字にならずにすんでいます。将来的な経営を考慮すると事業規模の拡大を検討していく必要があります。例えば交通弱者のみならず一般の住民も利用可能にするなど考えられますが、そのためには近隣の同業者の了解を得るなどクリアすべき課題もあります。現状に満足せず将来を見据えたコミュニティビジネスを運営していくことが重要だと考えています。



今後の課題・展望

エリアの拡大とサービス内容の多様化

目標1

利用客層及び エリアの拡大

中川村内のみの運行エリア（病院・鉄道駅除く）の交通弱者専用の乗合タクシーを、一般の地域住民や観光客も利用可能とし、運行エリアも村外へと拡大を図る。そのために村外同業者との調整が必要となる。

目標2

サービス内容の 多様化

人の移送に加え、日常生活の買物代行や散髪等の出張サービスなど、本来移動を伴う日常生活を運営側が利用者に届ける多様なサービスの展開を図る。

目標3

公共施設の 有効利用

有償運送事業に加え、公共施設等の維持管理などをNPOの活動とすることによって、行政と協働し、村内公共施設の維持管理から有効活用へと発展させ、さらなる地域貢献を目指す。

関連・関係する団体

中川村役場 〒399-3892 長野県上伊那郡中川村大草4045-1 Tel: 0265-88-3001